

一般質問通告表

1.

5番 岡 和明 議員

質問方式 一問一答

亀居城管理問題に起因すると思われる自動車事故について

11月1日の晩、青木線の黒川～御園間の峠になった所で、私は乗用車とイノシシの衝突事故現場に遭遇しました。

玖波方面行きの対向車が、私の車とすれ違ってまもなく、大きな衝突音と共に急停止。私が車を降りて救援に駆けつけたところ、その車はイノシシと衝突して前部から長さ1メートルほどの部品が落下し、激突したイノシシは路上に倒れて虫の息でした。男性運転手の通報で、警察が交通整理や現場の処理に当たりました。

3年近く前には、同じ場所で私の家族が同様の事故発生の瞬間に遭遇しています。この場所で起きた事故はこの3年間だけでも2件にとどまらない可能性があります。

前にも申しましたが、亀居城の管理があまりに悪く、城山が野生動物の住处となり、住宅地や通学路付近に大型野生動物（イノシシ、クマ）が出没したり、近辺の道路で事故が起きたりと、さまざまな問題が起きています。

青木線の事故は、城山と山地との間を往来する野生動物と車との間で起きているようです。文化財の管理・活用ができていないところから始まって、雑草・樹木の繁茂、イノシシ、マムシなど公園管理上の問題、さらに交通安全上の問題にまで至っていると言えます。改善が必要なのは明らかです。それに向けての意見をお尋ねします。

クズ（葛）の侵略問題について

世界の侵略的外来種ワースト100指定のマメ科植物クズ（葛）の繁茂が本市でも年々ひどくなり、景観を悪化させ、通行や生活に支障を引き起こす例が増えています。クズの管理はやっかいな問題であり、共に知恵を絞り力を合わせて取り組む必要があると思い、当面どのように考えておられるか伺います。

今年の夏休み明け、小方学園周辺の通学路にはクズが伸び放題でした。歩道の点字ブロックが覆われ、児童・生徒もクズをまたぐようにして通学していました。問題を担当課に伝えたところ、一部（給食センター下など）については早急に対応して下さり、私も関係各位の努力に敬意を払っています。

その一方で、解決にはほど遠い現実があります。小方学園の通学路だけでもクズが覆う場所に残り、小方ヶ丘公園の並びでは住宅の前が高木に至るまで一面クズで覆われ、クズに付くマルカメムシの発生で洗濯物を外に干せないと訴える住民もいます。

通学路でもあるジグザグ階段北側法面は2年ほど前に木立を全面的に切り倒したことで一面のクズが原が出現。この夏ついに青木線に並行する卸場川はクズに完全に覆われ、川が存在すら見えなくなり、青木線の歩道にも侵出を始めました。この地区や御園地区のクズ問題は、先日の議会報告会でも市民から対策を求める声が上がりました。

クズは根に栄養をためて年々繁茂の力を増強していきます。夏に生長させて、冬前に刈るやり方では、環境の悪化は食い止められそうにありません。対策についてお考えがあればお聞かせ下さい。

学校選択制の評価について

入学を前にした生徒・児童が、入学する学校を選ぶことができる学校選択制が、本市では平成18年度からスタートしている。

制度を導入することの効果について、

- ① 児童・生徒の多様なニーズに答えることができる
- ② 学校が特色や問題点を意識し、より良い学校運営ができる
- ③ 選ばれる学校にむけて、教育の質の向上
- ④ 地域で、学校をよくしていこうという機運が高まる

危惧される点については、

- ① 通学手段について
- ② 地域活動への支障

と説明があった。

当時は、学校の選択制が統廃合に拍車をかけることになるのではとの心配する声もあったが、統廃合と学校選択制は別のこと、との説明で始まった制度だ。

Q 1 20年経過して、本制度をどのように評価しているか。

Q 2 現実的に玖波学区では児童・生徒の減少に拍車がかかっているように思うが、その点についてのお考えを問う。

Q 3 制度導入当初は特色ある教育活動支援事業として、校長裁量の予算があったが、同様の事業を復活したら、本年度からスタートしたコミュニティスクールの制度の後押しになると思うがお考えを問う。

不登校の原因究明とその対策について

小中学校での不登校の原因は何でしょうか。

学びの多様性学校など目につくのは事後対策ばかりで、不登校児童・生徒の発生そのものを生まない様にするための方策は聞いた記憶がありません。遊びは学びだと文部科学省や広島県教育委員会は言いますが、どのような発想でしょうか。遊びの本質をお尋ねします。

その上で、私なりの提案をしたいと思います。

新町ポンプ場設置計画のコペルニクスの作戦変更について提案

小瀬川沿いの区域において、大雨が降ると道路が冠水する等の被害が発生することを防止する対策として60年前に新町ポンプ場の計画が作られました。

しかし、問題の本質は水路であって、それを無視したのがポンプ場計画です。仮に完成させれば、機能しないとして会計検査院に叱られます。そこで全く別の提案をしたいと思います。

4.

2番 中野 友博 議員

質問形式 一問一答

浸水・冠水対策の現状と今後の対応について

本市では令和7年9月10日に1時間79ミリメートルの降雨を経験しました。

近年は線状降水帯等により短時間に雨が集中する傾向があります。本市としては、下水道経営戦略に基づき「安心・安全の確保」、「持続可能な更新」、「災害に強い下水道」の三本柱を掲げ、老朽更新を着実に進めつつ、常襲箇所の浸水課題に計画的に取り組む方針です。

しかし、上記の方針を進めるに当たり、財源の確保と平準化をはじめ、老朽更新と浸水対策を両立させる人員・工程の最適化、浸水実績や設計前提の把握、優先順位と進捗の合意形成・情報発信、など課題が山積しております。

これらを整理し段階的に解消していく観点から、こうした現状を踏まえ現行の排水計画・運用が最新の降雨傾向とどのように整合しているかを伺います。

次に、過年度の整備・維持管理・情報提供について、常襲箇所の把握状況や課題の認識を伺います。

あわせて、中長期の方向性として、優先順位の考え方、段階的な整備の進め方、進捗の見える化、財源の基本的な考え方について、市としての考えを伺います。

5.

11番 西村 一啓 議員

質問形式 一問一答

市内での県が行う砂防堰堤工事及び市内の道路整備状況についてお尋ねします

市内には急傾斜地に指定されている地域が多く見受けられ、道路整備についての要望も多々出てきています。

現在も白石地域内で進められています砂防堰堤工事等に見受けられます。

今後は油見地区内にも計画が立てられて11月13日には地域住民への説明会も開催されたとお聞きしております。工事の計画や工事図面の閲覧もこれから市役所の方と進められることと思います。油見地域内は従来から山裾から中段に住居が建てられ今日まで生活されていらっしゃると思います。

今後のことを考えると工事用道路整備の問題は地域にとってチャンスと考えられると地元の声です。自治会からも要望されています。住民の高齢化、住居の老朽化併せて建替や取壊しについても取付道路に期待が寄せられています。

地域内の声を反映しての住み良いまちづくりへのお考えと本市の今後の取組みについてのお考えや、工事完成後の国から市道になった場合の本市のお考えとこれからの道路整備の考え方について、お伺い致します。

6.

3番 豊川 和也 議員

質問方式 一問一答

北朝鮮による拉致問題の風化防止に向けた周知啓発の「見える化」と教育の体系化等について

前回、市長が「拉致行為は許しがたい人権侵害」と明言された認識を踏まえ、北朝鮮人権侵害問題啓発週間（12月10日から16日まで）に合わせて市長、教育長においても質問をさせていただきたい。

亀居公園の通年活用による観光活性化と管理水準の向上について

亀居公園の観光活性化へ向け、

- ① 通年イベント化の仕組みの整備
- ② 「思い出台帳」およびデジタル記帳
- ③ 園外・園内サイン（看板）の新設・更新について
- ④ 清掃・軽管理の週数回巡回体制の導入（トイレは現行どおりシルバー人材センターさんで維持、草刈は繁茂期に増回）

について、方針・体制・スケジュールを問う。

次年度クーリングシェルトアの予定、暑さ対策

夏の暑さは例年増すばかりなので暑さ対策はしっかり予算を策定するこの時期に聞いておく必要があるため、来年度に向けた暑さ対策を質問します。